※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１１

令和５年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	古典芸能（落語）（選択）	単位数	３単位のうちの２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	自主教材プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

毎回少しずつ落語のネタを覚えてきて、授業で演じてもらいます。まずは担当者が手本を示し演じて見せるので、単なる丸暗記に終わらず、言葉と仕草による表現方法、さらには時代背景も理解した上でネタを覚え練習して授業に臨んでください。
また、２年生では落語家にとっての必修課題である鳴り物も練習します。

２　学習の到達目標

（１）１年時の学習を基礎に、落語への理解をより高度な段階に引き上げることを目標とする。
（２）落語を演じるのみならず、落語家にとっては必修課題である「出囃子・ハメモノ・鳴り物」を学ぶことにより、落語という芸能に対するより深い理解をめざす。
（３）学習活動に主体的に取り組むことで、良き鑑賞者の育成をめざす。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・落語についての知識を深めようとしている。 ・ネタをしっかり覚えて、適切な音声で演じることができる。 ・太鼓や鉦などの鳴り物の演奏方法を正しく理解して、演奏することができる。	・落語の演出方法や話芸の面白さを理解して表現することができる。 ・セリフを忘れたり間違えたりした時に、どのようにして対処することができるか。	・礼節をわきまえた態度で取り組もうとしている。 ・師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。 ・ネタの時代背景も理解しようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知 (a)	思 (b)	主 (c)
四月～七月	落語「道具屋」	落語の発声 落語の仕草 落語の実演	a:　落語についての基礎的な知識を習得する。ネタをしっかり覚えて、適切な音声で演じることができる。 b:　落語の演出方法や話芸の面白さを理解して表現することができる。 c:　礼節をわきまえた態度で取り組んでいる。師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	師匠の前で演じる	師匠の前で演じる	授業観察
	鳴り物	太鼓・鉦の演奏 「二番太鼓」 出囃子「天王寺」 「暴れ」「馬駆け」 「晒くずし」など	a:　音源の三味線に合わせて適切に演奏することができる。 b:　曲調を理解して強弱など表現力のある演奏ができる。 c:　師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	師匠の前で演じる	師匠の前で演じる	授業観察
八月～三月	落語「七度狐」	落語の発声 落語の仕草 落語の実演	a:　落語についての基礎的な知識を習得する。ネタをしっかり覚えて、適切な音声で演じることができる。 b:　落語の演出方法や話芸の面白さを理解して表現することができる。 c:　礼節をわきまえた態度で取り組んでいる。師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	師匠の前で演じる	師匠の前で演じる	授業観察
	ハメモノ	「七度狐」におけるハメモノの実演 太鼓やドラの演奏	a:　演奏の「きっかけ」を間違わずに適切な音量で演奏することができる。 b:　ハメモノの持つ演出効果を理解して、演者の演出に合わせた演奏ができる。 c:　師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	師匠の前で演じる	師匠の前で演じる	授業観察
	鳴り物	太鼓・鉦の演奏 出囃子「船行き」 「石段」「粟餅」 「早船」「都囃子」 「お兼ざらし」など	a:　音源の三味線に合わせて適切に演奏することができる。 b:　曲調を理解して強弱など表現力のある演奏ができる。 c:　師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。	師匠の前で演じる	師匠の前で演じる	授業観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度